

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年2月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103102
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム 明和の家
所在地	鹿児島県鹿児島市明和五丁目1番15号 (電話) 099-218-9121
自己評価作成日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは桜島を見渡せる高台にあり、今年も雪化粧した桜島を、ホーム内から入居者様と共に見る事ができました。また、今年も駐車場にてホーム入口でみかん狩りを行う事ができました。寒い中でしたが、みかんの木の下に広げたネットに落下するみかんを見て、歓声が上がっておりました。ご家族様代表の方も参加して下さい、残りのみかんは、地域の方が道具を借りに来て、自分たちで収穫するのを楽しみにされております。コロナ禍でなかなか外出や面会制限で交流する事が出来ませんが、楽しみを持って生活出来るように工夫を重ねております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、広い駐車場の一角にみかんの木が有り、毎年、家族や近隣住民とみかん狩りを楽しんだり、一時的駐車場の借用依頼を受けたり、民生委員の声かけが有る等、日常的に地域との交流を大切にしている。
- ・コロナ禍であるが定期的に対面での運営推進会議を玄関エントランスで開催する等、場所を工夫している。またコロナ感染拡大中は委員へ電話で参加してもらう等、参加者の意見をサービス向上に活かしている。
- ・事業所理念に基づき利用者がいつも笑顔で過ごせるように、身体状況にあわせてできることを一緒にしながら寄り添うケアをしている。
- ・管理者は職員によく声かけを行い、話しやすい雰囲気を作り意見や提案を傾聴している。法人代表に相談し非常勤職員の生活力アップの為、常勤職員とする等、働きやすい環境作りに努めている。
- ・毎月の勉強会は担当を決めて資料作りから発表まで行う等、職員は自己研鑽しサービス向上に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念と明和の家独自の理念を職員で唱和し、共有に努めて、理念に添って、日々のケアを振り返るようにしている	法人理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を玄関・事務所・各ユニットの廊下に掲示している。毎朝、職員で理念を唱和し、共有し実践している。日々の申し送りや毎月のミーティングで振り返り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に出かけて行く機会はコロナ過でほぼないですが、駐車場を借りに来られたり、ゴミステーション掃除用の水をもらいに来られたり、日常的に言葉を交わしている	町内会に加入し地域情報を得ている。コロナ禍で地域清掃活動や公民館活動は自粛している。事業所庭でのみかん刈りも住民の参加で収穫を楽しみ、散歩や駐車場借入時の挨拶、近隣住民から園庭の樹木剪定等、日頃から声かけ合う関係で、地域住民からの相談にも対応する等、地域の一員として交流している	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議にて、地域の方からの入居相談等は、連携を図るように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、ホームの運営状況を報告し、ご意見を頂く事で、ケアに活かせるようにしている</p>	<p>2ヶ月毎に議題に基づき対面での会議や電話参加での会議等、工夫して開催し、事業所の活動を報告し話し合いを行っている。杖の購入申請について等の意見で協力し合ってサービス向上に取り組みケアにも活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>生活保護世帯の方からの相談も多く、生活保護課と連携を密に図り、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは介護保険の申請や新規入居、ケアプラン届け等で窓口に出向いたり、生活保護課とは電話で相談しながら連携を密にし協力関係を築いている。市主催の研修にも参加し、職員にも伝達している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止未実施委員会を中心に、毎月の研修開催・外部からのオンライン研修参加を促し、全職員への意識づけを行っている。鍵の施錠は夜間の安全面を考慮し、それ以外以外行わないケアに努めている</p>	<p>委員会を中心に毎月1回、身体拘束の三原則やスピーチロック、高齢者虐待等、事例や資料を基に研修会や勉強会を実施し、「待つて」等、不適切な言葉がある場合、職員間で声掛けし合っている。日中の玄関施錠はせずに見守り、外に出たがる場合は園庭に一緒に出て散歩支援している。リスクが高い場合、家族の了解を得て床センサー使用し定期的に記録している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月 ミーティングにて高齢者虐待防止研修を行い、職員が、一人でストレスを抱え込まない、自由に意見を言い合える雰囲気を作る事で、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	オンライン研修が大半の昨今、一人でも多くの職員が研修に参加し、活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談時・見学来訪時等に説明を行い、納得していただいております。入居が確定したら、重要事項説明書・契約・解約等の説明を再度行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者・ご家族様が面会時や電話相談時に、意見、要望を言い出しやすいな雰囲気作り、聞く姿勢を持ち、職員との情報共有に努めている	利用者からは日常の関わりの中で時間を設け意見や要望を聞いている。家族からは面会や電話で状況報告やケアプラン内容を報告し意見や要望を聞く機会を設けている。毎月の「明和の家」新聞を写真等と送付していたがコロナ禍で自粛している。ライン等で状況を見たいとの要望があり、取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで出されて意見は管理者に報告し、必要に応じて管理者会議で本部に報告している	日々の関わりの中や申し送り・毎月のミーティングで意見や提案を聞き、備品購入や非正規職員の生活力アップについて本部に相談し常勤に変更した事例等、安心して働ける環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	無資格者・就労制限者・個人的な理由による労働時間等についても受け入れ、各自が向上心を持ち、働き続けられるように就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者に直接相談できる窓口があり、法人主催の研修案内・オンライン研修参加促し、働きながらトレーニングできる体勢を支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の異なる事業所との研修を兼ねた助勢により、視野を広げ、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の表情・言動・行動等から不安な思いを察し、安心して日常生活が送れるように、寄り添うケアに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設以外に他の選択肢がなかった家族の思いを受け止めて、不安な本人・家族の思いを相談出来るような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で、本人と家族が、その時、何を求め、今後どのような支援を求めておられるのか等、共に支えあえる関係作りに努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を確認し、出来る動作能力を見極めながら、共に生活できる支えあえる関係作りに心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も在宅での生活を延長できるように、必要に応じて、電話で相談させて頂いたり、コロナ禍で窓越し面会ではありますが、共に支えあえる関係作りに務めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自由な面会や外出ができませんが、長年の馴染みの方の面会もあります。面会後外に出られた頃合い合い見て、ご本人と共に外に出て、お見送りをして頂いている	窓越し面会であるが家族や馴染みの人との交流を大切にし、面会終了後は利用者と職員も一緒に園庭に出て見送りをしている。友人からのラインや電話・ハガキ・手紙の取次ぎ支援をしている。買い物は家族や職員が支援し受診後ドライブで車窓から花見等、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の関係性と、ペースに合わせて、孤立する事なく、利用者同士が関わり会えるように支援している。コロナ禍であり、密にならないように努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年前に退居されたご家族様からの相談がありました。また 1 年忌のご報告致しました		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	慣れ親しんだ在宅での生活習慣をできるだけ継続できるようにし、危険を伴い困難な場合は、本人・ご家族様と話し合い、安全な生活支援に努めている	日々の関わりの中で、特にお茶やおやつの時間によく話される。帰宅願望や食べる事について多く聞かれる。困難な場合は手や足の動き・大声を出す等、個々のサインを把握し申し送り共有し家族と話し合い、本人中心に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コロナ禍でなかなか入居前に面談する事が困難な場合も多いですが、担当ケアマネ・ご家族様から十分にアセスメントできるように連携している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様から聞かれる言葉や、行動やその日の心身状態を見て、出来る動作能力の支援に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで統一したチームケアの方向性を決定し、必要に応じてご家族様に相談し、介護計画書を作成している	本人や家族の思いや意向を聞き主治医の意見、職員で話し合い介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、6ヶ月で見直している。状況変化時はその都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや、職員間の情報共有により、ケアの統一を図り、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医も支持母体に限らず、往診、歯科診療、訪問看護等、その時々発生する状況に応じて柔軟な支援と対応に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、様々な地域資源を活用する事は出来ませんが、楽しみのある日常に向けて、今は体位力維持に努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については本人・家族で入居相談時に決定して頂き、適切な医療が継続できるように支援している	入居相談時にかかりつけ医について説明し支援している。月1回の家族同伴の受診や協力医療機関へ月1回職員同伴での受診、また往診での医療支援や訪問看護も必要時受けている。日々の健康チェックは看護職員が実施し、適切な医療を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の職員配置はないですが、支持母体の外来看護師、往診の看護師・必要に応じて訪問看護師等に相談し、受診や看護を受けられるように支援している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院と同時に看護サマリーを提示し、安心して治療ができるようにしている。退院時も地域連携室との情報共有に努め、関係作りを行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や、終末期のあり方については、揺れ動く家族のご意向を重視し、主治医・家族・訪問看護師との連携に努めチームで支援している。</p>	<p>入居契約時にマニュアルに基づき説明し希望を聞き、確認書を貰っている。状態変化に応じて主治医から家族に説明し確認している。重度化した場合、主治医の説明後家族の希望を確認し、方向性を共有し、主治医、家族、訪問看護師と連携しながら支援している。救急搬送や在宅を提案することもある。看取りの実績がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>普段から急変や事故等については、常にあり得る事をお伝えしており、その都度話し合い、全職員が対応できるように実践をしている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急時の災害対応等については、年間スケジュールに組み込み、防火管理者を中心に研修をしている。地域の方や民生委員さんとの協力体制も築いている</p>	<p>自主訓練を含めて年4回防災訓練を利用者参加で実施している。1回は消防署立会で昼間想定のお知らせ・消火訓練・避難誘導訓練を実施し講話も聞いている。自主訓練を土砂災害・風水害・地震想定で各階の1箇所に避難誘導訓練している。通常は民生委員、近隣住民の協力体制を構築している。備蓄として3日分の水・パックご飯・味噌汁・スープ・缶詰・カレー・カップラーメン・菓子の食料品とカセットコンロ・ボンベ・防災頭巾・介護用品・感染対策物品等準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格尊重とプライバシー保護については研修を受けたり、常に意識する事で、自分のケアへの振り返りを行なうようにしている	年1回、人権擁護・接遇マナー・個人情報保護について研修を受け、事業所でも毎月担当者が資料から準備し発表する形式で勉強会を実施している。排泄時や入浴時は声掛けの工夫やドアを閉めたり失禁時のさりげない対応で羞恥心に配慮している。声掛けは自己決定できるよう、待つ姿勢で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを言葉にできない方もあるが、諦めずにお聞きすると言葉で伝える事ができる時もあるので、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた支援を行う事で、業務が大きくずれる事も多いですが、できるだけ安全な範囲で希望に添って支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で思うままに更衣される為季節にそぐわない着衣も多いですが、その方なりの身だしなみを尊重している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番の楽しみは食べる事であったり、自分の力で食べる事である。出来る範囲で一緒に家事活動に参加して頂いている	献立は月当番制で料理本を見ながら利用者の好みを聞き作成している。個々の食形態でとろみを活用したりスプーンで食べる工夫をしながら楽しく食べれるようにしている。誕生日は茶碗蒸しや唐揚げを提供したり、季節の行事食やそば打ち・餅つき等で食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量もそれぞれ個人差があり、その日の状態に応じて、食事内容や好みに合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、促し、付き添い確認、介助、洗浄を行っている。必要に応じて訪問歯科往診を依頼し、いつまでもおいしく食べられるようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なおむつ使用に切り替える事なく、排泄パターンに合わせてトイレ誘導、パットの種類等常に検討し、できるだけトイレでの排泄を支援している	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、個々の時間帯でトイレ誘導し排泄支援している。排泄用品はリハビリパンツに個々に応じてパットを使い分けている。ポータブルトイレでの支援もある。パットの汚染判断や便意を自覚し職員に自分から声かけられるようになった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼすケアへの影響を考慮し、できる限り自分で汚染なくトイレでの排泄を支援するように取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴拒否の方も多く、それなりに理由もあります。タイミングや言葉かけを工夫しながら、その気になられるのを待つようにして、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週3回、午前中の支援であるが、希望に応じてシャワー浴と足浴支援もある。入浴拒否がある場合は声掛けの工夫や職員交代で支援するが無理強いはずせず毎日の陰洗や状態に応じて全身清拭支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床する時間、食事の時間、就寝する時間も個々の生活パターンも違う為、その人なりに安心できる時間に休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の用法や用量をきちんと理解し、処方変更時は、薬局にも確認したり、副作用等の症状変化にも気配りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の食事支援として、一緒にお菓子作り、ホットプレートを使用した昼食作り、寿司桶を使用した料理等で、食べる楽しみを支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍で定期受診以外 屋外活動を計画する事ができませんでしたが、家族の方の協力を頂き、ホーム駐車場にて、「みかん狩り」を行ないました。</p>	<p>コロナ禍の為、屋外活動は自粛中である、天気の良い日は園庭の散歩や外気浴をしている。家族の協力で受診時に買い物や定期受診時にドライブ支援や個別にドライブで初詣にも出かけている。ホーム駐車場のみかん狩りを楽しんだり、花見に出かける計画もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ禍で自分で買い物をするという事がなかったので、年度末にはバザーを開催する予定です</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>なかなか文字を書こうとされませんが、促せば書くこともできます。電話で会話を楽しまれる方もある。今年も年賀状作りを計画している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>朝陽がホール内まで入り込み眩しい朝食風景です。夕方は西日が入り込み、一日の変化を感じる事ができます。桜島の冠雪や爆発もホーム内から眺める事も出来ます。居心地良く生活して頂けるように工夫している</p>	<p>ホールには朝夕、陽が入り込み採光は遮光カーテンで調整し、空気清浄機や換気・加湿器で居心地よく過ごせる環境を作っている。利用者と合作の季節の飾り物や水仙が活けてあり、利用者の書き初めも掲示している。定位置にテーブルや椅子・ソファ・テレビ・ラジオがあり、居心地よく生活できるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自分の部屋で過ごす空間 集う空間等、時間や居場所も違いますので、思い思いの時間を支援している</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人・家族と相談しながら、使い慣れたものを持参して頂いている。なじみの物が安心につながる事ばかりではありませんが、居心地よく生活して頂けるように工夫している</p>	<p>居室は身体状況に応じて電動ベッドまたは介護ベッドがある。タンス・テレビ・洗面台・エアコンが設置している。使い慣れた寝具やタンス・パイプハンガー・テーブル・椅子・遺影・家族写真・ぬいぐるみ・写経が有り、自分らしく生活できるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全な杖歩行、手すり歩行 車椅子が自駆動が、自由に行える空間を活かし、自立した生活を支援している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない